校 長 室 だ よ り(No.40)

令和４年1月14日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

新型コロナウイルスワクチン（ｍＲＮＡワクチン）

2020年から世界中で感染が拡大した新型コロナウイルス。現在もなお新たな変異種が私たちの脅威となっています。令和4年1月現在、日本各地で次の感染の波が危惧される状況となり丹波市においても罹患者が増えてきました。

この新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑えるためにワクチン開発に挑んだのがハンガリー人の生化学者、カタリン・カリコ氏です。カタリン・カリコ氏は、現在、バイオ企業バイオンテック社の副社長です。ファイザー社と協同で新型コロナウイルスワクチンを開発しました。

世界中の多くの人が接種した新型コロナウイルスワクチンは、mRNAワクチンと言います。このmRNAは、コロナウイルスだけでなく、がんや心臓病、その他の病気にも応用ができる可能性があると言われています。日本でも京都大学の山中教授がその研究をされていたことで有名になりました。

このmRNAを使ったワクチンは、新型コロナウイルス感染症が流行し始めて約1年で完成しました。私たちは、たった1年という短い期間で完成したように考えていますが、実は30年に及ぶ開発の歴史がありました。最初の実験は1990年だったと言われています。このワクチンに使われているRNAをワクチンに使える見通しが得られたのは、それから約15年も後だったということです。

実は、mRNAワクチンは、新型コロナウイルス感染症が流行する以前に、すでに実用化の一歩前まで来ていたそうです。たった1年でワクチンができたように見えるのは、カタリン・カリコ氏らを筆頭に、国籍や人種の違う多くの研究者たちが、30年間もの間、様々な困難を乗り越えて、お互いに情報を交換し、協力しながら辛抱強く研究していた成果でした。

私たちを救ったこのワクチンの開発は、「人との出会いを大切にして、国籍や人種を問わずいろいろな人と協力して、協働していくこと」「困難なことにあっても、『見直せるいいチャンス』と簡単にあきらめず努力をつづけること」「そして、何より、自分の仕事は『必ず誰かの役に立つ』人のために役立ちたいという考えを大切にすること」などの想いに支えられたワクチン開発であった言われています。

「人と協力していくこと（人間関係形成・社会形成能力）」「苦手なことにも挑戦すること（自己理解・自己管理能力）」「こつこつ継続すること（課題対応能力）」そして、「人の役にたつこと（キャリアプランニング能力）」大切にしたいことですね。